

山口大学構内出土の植物遺体

山口大学農学部 宇都宮 宏

教育学部附属教育実践研究指導センター、教養部複合棟及び医学部附属病院病棟の各新営予定地出土の植物遺体を観察・調査して、その植物名（数、状態）を明らかにし、その環境を考察した。

方 法

山口大学構内の教育学部附属教育実践研究指導センター、教養部複合棟、医学部附属病院病棟建設予定地の調査区域から取り上げた埋土は、まず水洗によって、土と植物遺体を丁寧に分離した。但し、植物遺体に付着して取れない微粒の土は、ブラシを使って除去した。水洗した植物遺体は、種子（堅果）、木片、樹皮及び葉身に分けた後に、肉眼あるいは解剖顕微鏡を使って観察（10～20倍）を行ったが、特に、木片については、木口、柀目、板目の切片を作成して、生物顕微鏡で鏡検（50～200倍）し、同定した。

観察結果

上記の山口大学構内の各建設予定地から出土した植物遺体は、種子（堅果）、木片、樹皮及び葉身片が出土したが、その植物の種類と出土数は以下の通りであった。

教育学部附属教育実践研究指導センター新営予定地からの植物遺体の観察・調査からは種子（堅果）から21種類、果皮からは1種類、樹皮から1種類、木片からは8種類の植物が認められた。種子（堅果）の中では、ハゼが最も多く、次いでヌルデ、スダジイの順であった。樹皮はミズナラに限られていたが、木片はアラカシが最も多く、次いでブナ、イヌブナ、コナラの順であった。

次に教養部複合棟新営予定地からの植物遺体からは、種子（堅果）から6種類、果皮・樹皮・葉身・葉鞘からは5種類の植物が出土した。種子の出土数はわずかであったが、アカマツの樹皮やトチノキの樹皮が比較的多く出土していた。

医学部附属病院病棟建設予定地からは、樹皮としてアラカシが出土した。

これらの出土した植物遺体の種子（堅果）、木片、樹皮及び葉片は還元状態や炭化状態での出土がごく少なく、比較的酸素の供給が可能な酸化状態下にあったように考えられる。

山口大学構内出土の植物遺体

Tab. 8 山口大学構内出土の植物遺体

1. 教育学部附属教育実践研究指導センター新営予定地
(1 グリッド 河川跡 13層~27層)

出 土 植 物 名		数
(1) 種子 (堅果)		
スタジイ	(<i>Castanopsis cuspidata</i> Schottky.)	307
クヌギ	(<i>Quercus acutissima</i> Carr.)	31
ヤブツバキ	(<i>Camellia japonica</i> L.)	3
ハシバミ	(<i>Corylus heterophylla</i> Fisch.)	22
コブシ	(<i>Magnolia kobus</i> DC.)	12
ヤマハゼ	(<i>Rhus silvestris</i> sieb.et Zucc.)	32
イヌガヤ	(<i>Cephalotaxus harringtonia</i> K.Koch.)	11
ナンキンハゼ	(<i>Sapium sebiferum</i> Roxb.)	16
ヌルデ	(<i>Rhus chinensis</i> Mill.)	447
ハゼ	(<i>Rhus succedanea</i> L.)	621
マテバシイ	(<i>Pasania edulis</i> Makino.)	1
ノブドウ	(<i>Ampelopsis brevipedunculata</i> Trautv.var.heterophylla.Thunb.)	34
イヌブナ	(<i>Fagus japonica</i> Maxim.)	24
ハンノキ	(<i>Alnus japonica</i> Steud.)	14
ホソバイヌタデ	(<i>Polygonum trigocarpum</i> Makino.)	9
ノグサ	(<i>Schoerus apogon</i> Roem. et Schult.)	16
コウモリカズラ	(<i>Menisbernum dauricum</i> DC.)	14
アラカシ	(<i>Quercus glauca</i> Thunb.)	71
ツブラジイ	(<i>Castanopsis cuspidata</i> Schottky.)	95
タブノキ	(<i>Machilus thunbergii</i> Sied. et. Zucc.)	18
バイカモ	(<i>Batrachium niponicum</i> Kitamura var. majorkitam.)	4
(2) 果皮		
クヌギ	(<i>Quercus acutissima</i> Carr.)	2
(3) 樹皮		
ミズナラ	(<i>Quercus mongolica</i> Fisch var.gross serrata Rehd.et Wils.)	198
(4) 木片		
アラカシ	(<i>Quercus glauca</i> Thunb.)	1164
イヌブナ	(<i>Fagus japonica</i> Maxim.)	755
サンゴジュ	(<i>Viburnum awabuki</i> K.Koch.)	1
ミズナラ	(<i>Quercus mongolica</i> Fisch ver.gross serrata Rehd et.Wils.)	373
ハウチワカエデ	(<i>Acer japonicum</i> Thunb.)	1
コナラ	(<i>Quercus serrata</i> Thunb.)	510
ハンノキ	(<i>Alnus japonica</i> Steud.)	298
ブナ	(<i>Fagus creanata</i> Blume.)	850

観 察 結 果

2. 教養部複合棟新営予定地
(第1号井戸)

出 土 植 物 名	数
(1) 種子 (堅果)	
クヌギ (Quercus acutissima Carr.)	1
アベマキ (Quercus variabilis Blume.)	3
ヤマハンノキ (Alnus hirsuta Blume.)	1
サンショウ (Zanthoxylum piperitum DC.)	3
ノグサ (Schoerus apogon Roem. et Schult.)	2
オオトボシガラ (Festuca subulata Bong. var japonica Hack.)	1
(2) 果皮・樹皮・葉身・葉柄	
アベマキ (Quercus variabilis Blume.)	4
アカマツ (Pinus densiflora Sieb. et Zucc.)	55
トチノキ (Aesculus turbinata Blume.)	24
モウソウチク (Bambusa edulis Carr.)	3
コナラ (葉身) (Quercus serrata Thunb.)	2

3. 医学部附属病院病棟建設予定地
(Bトレンチ 第9層 緑灰色土中)

出 土 植 物 名	数
アラカシ (樹皮) (Quercus glauca Thunb.)	2

考 察

1. 教育学部附属教育実践研究指導センター新営予定地

ぶな科植物は8種が認められる。落葉種は、クヌギ、イヌブナ、ミズナラ、コナラの4種類、常緑種は、スダジイ、アラカシ、マテバシイ、ツブラジイが出土しており、暖地性のぶな科植物が認められる。このほかには落葉樹のナンキンハゼ、ヌルデ、ハゼ、コウモリカズラ、そして落葉湿生(日陰)に適するハウチワカエデやハンノキもみられる。常緑樹としては、ヤブツバキ、イヌガヤもあり、照葉樹林樹が認められる。また河畔に自生するホソバユスタデ、水中に自生するかやつりぐさ科のノグサもみられるところより、照

葉樹林と落葉樹林を混成した山林雑木林を構成しながら、付近は多湿の湿地状態である環境であったと推察される。

2. 教養部複合棟新営予定地

第1号井戸からの植物遺体は、種子（堅果）、果皮、樹皮、葉身（不完全）の状態出土しているが、炭化している植物遺体は非常に少ない。中でもアカマツの樹皮片が多く、次いでトチノキの樹皮である。ぶな科植物はクヌギ、アベマキ、コナラの落葉樹に限られている。また山林中に自生するサンショウ、林内の多湿環境に自生するイネ科のオオトボシガラ、湿原野に自生がみられるノグサも出土しているところより、山林野の状態にありながら、多湿の土壤状態であり、水流の動きもある環境であったことが推察される。

参考文献

- (1) 貴島恒夫・岡元省吾・林 昭三 1986. 原色木材大図鑑. 1-176. 保育社, 東京.
- (2) 北村四郎・村田 源・小山織夫 1968. 原色日本植物図鑑 (下). 69-421. 保育社, 東京.
- (3) 北村四郎・村田 源 1969. 原色日本植物図鑑 (中). 1-348. 保育社, 東京.
- (4) 北村四郎・岡元省吾 1970. 原色日本植物図鑑. 1-250. 保育社, 東京.
- (5) 北村四郎・村田 源・堀 勝 1970. 原色日本植物図鑑. 2-264. 保育社, 東京.
- (6) 牧野富太郎 1955. 牧野日本植物図鑑. 654-661, 896-911. 北隆館, 東京.
- (7) 島地 謙・伊東隆男 1986. 図説木材組織. 1-163. 地球社, 東京.